

インド 米国産リンゴの追加関税を撤廃

The Spokesman-Review 2023年9月6日(9月11日更新)

米国とインドの間の貿易協定が水曜日(9月6日)に発効し、これはワシントン州が巨大なインド市場への主要な輸出産地として復帰する呼び水となる。トランプ政権が課した鉄鋼とアルミニウムの輸入関税に対する報復として、インドのナレンドラ・モディ首相が米国産のリンゴに20%の追加関税を課す前は、ワシントン州は毎年1億2千万ドル相当のリンゴをインドに輸出していた。ワシントン州のリンゴ生産者と輸出業者を代表する北西部園芸協議会によると、インドはかつて同州のリンゴの2番目に大きな輸出市場であったが、追加関税発効後の今シーズンの輸出額は99%以上減少し、約76万ドルとなった。(豆類の記述は省略)

両国間の貿易における追加関税を撤回する合意は、バイデン大統領によって6月に発表されたが、水曜日に正式に発効した。この進展はワシントン州の生産者にとって朗報ではあるが、ワシントン州果樹協会のスポークスマンを務めるティム・コビス氏は、その利益はすぐには得られないだろうと話す。同氏は、「ワシントン州の生産者は、一夜にして何百万個ものリンゴをインドに出荷することはできない。これは特効薬ではない。それは長い回復の道のりになるだろうが、進歩ではある」と言い、ワシントン州のリンゴ生産者は、ピーク時には毎年800万箱以上のリンゴをインドに出荷していたと述べた。シアトルタイムズ紙によると、この量はインドの市場シェアの53%を占めていた。貿易障壁の下ではワシントン州のシェアは1%未満に減少していた。

この合意は、上院代表団の一員として2月にインドを訪問した際にリンゴ関税の問題を直接モディ首相に提起したマリア・キャントウェル米国上院議員が求めていたものである。同上院議員は声明の中で、この進展についてこれ以上嬉しいことはないとし、「10億人以上の人口を抱えるインドは世界最大の市場の1つであり、ワシントン州の生産者にとって重要な成長機会を提供する。これらの報復関税を撤廃することで、リンゴ生産者らはインドからの注文を受けることができ、早ければこの秋にも出荷することができる」と述べた。

執筆者: トッド・スティーブンス

エジプト ブドウはまだ輸出できる

FreshPlaza 2023年9月7日

エジプトの様々なブドウ会社のコンサルタントを務めるサレム・ゴニム氏は、エジプトの生食用ブドウはまだ輸出可能であると保証する。ゴニム氏は、「一部の輸出業者はまだクリムゾン品種の出荷予定を提示している。エジプト産のブドウが9月まで輸出されるのを見たのはこれが初めてだ」と言い、「このシーズンは素晴らしかった。生産者と輸出業者の業績は際立っていた。ブドウは今年のエジプトの輸出農産物第4位となっており、これまでに13万5千トンを出し、輸出量はまだ増えている」と述べた。(以下「」は同氏の発言)

「輸出量の48%は欧州市場向けであった。欧州の需要は、前シーズンに引き続き安定している。残りの半分はロシア、東アジア諸国、アラブ諸国に輸出され、これらの国の需要は今年大幅に改善した。エジプト産のブドウにとって比較的新しい市場であるアフリカ諸国にもかなりの量が出荷された。全体として、輸出量は我々の予想を上回った。」同氏によると、この出荷シーズンは価格の面でも生産者と輸出業者の両方にとって満足のいくものであった。「生産コストが全般的に増加しており、もし価格が悪ければまずいことになったので、価格が良いことに感謝している。」すべての品種が市場で好調であったが、一部の品種は他よりも一層順調であった。ゴニム氏によると、今年は白ブドウ品種が特に人気があった。

「出荷シーズンの成功の背後にある要因の1つは、シーズンが通常よりもかなり早く始まったという事実である。それは貴重な教訓である。始まりが早いほど良いシーズンとなる。また、最初は動きが遅いとしても、新しい市場に浸透することは非常に重要である。輸出業者は、より多くの市場への供給のバランスを取り、取組みを調整することで、得られるものが多い。」

執筆者: ユーネス・ベンサイド